

協定を結び握手する佐々木学長(左)と三日月知事=大津市



滋賀県と就職支援協定

専修大学は3月29日、滋賀県と就職支援に関する協定を結んだ。大津市の滋賀県公館で行われた締結式では佐々木重人学長と三日月大造知事が協定書を交わし、Uターンなどの就職支援について協力していくことを確認した。

本学が同様の就職支援協定を結ぶのは24件目。滋賀県が首都圏の大学と協定を結ぶのは初めて。



専修大学 日高理事長・佐々木学長を囲む会

図書館は、春の企画展「知の森へようこそ」図書館所蔵の魅力あふれる資料の探検を主催する。図書館所蔵の貴重書、豆本、大型本、巻子本など普段目にする機会が少ない資料約40点を展示。新入生向けに資料の探し方コーナーもある。

「エッセイ誌」【巻子本】「文正草子」、「国宝鳥獣人物戯画」(複製)ほか

知事・理事長・学長

就職支援協定の締結を記念して、三日月大造滋賀県知事と、日高義博理事長、佐々木重人学長が鼎談を行った。歴史的なつながりを再認識し、今後に向けて関係を強化していくことを確認した。(司会は専修大学広報課)

鼎談

滋賀県と専修大学は歴史的に深いつながりがあります。日高 創立者の一人である相馬永胤先生が彦根藩出身で、目黒田種太郎先生もゆかりがあります。創立130年の際、それぞれの出身県で創立者展を計画しました。駒井重格先生、田尻稲次郎先生、目黒田先生と実施しまして、滋賀県の相馬先生が残っています。今回の協定で本学にとってはお互いのつながりができました。

滋賀県の魅力をご紹介いただけますか。三日月 日本の中にある地の利、琵琶湖の水の恵まれている。琵琶湖の水の恵まれている。琵琶湖の水の恵まれている。

歴史踏まえ 新たなつながり。大学の役割の一つにネットワークづくりがあります。いろいろな地域から集まった学生が、一定の期間、共に学ぶことで作り出される一体感は卒業後も生かされるのです。

【専修大学の創立者】相馬永胤(そうま・ながたね 1850~1924)彦根藩出身。田尻稲次郎(たじり・いなじろう 1850~1923)薩摩藩出身。目黒田種太郎(めがた・たねたろう 1853~1926)旗本の家に生まれる。駒井重格(こまい・しげたか 1853~1901)桑名藩出身。

佐々木 創立者の4人は、社会に対する報恩奉仕というミッションを掲げて専修学校をつくりました。その考え方を今、21世紀ビジョンとして「社会知性の開発」と捉えなおしています。これは支えてくれる家族や地域など、自分の足元にある「社会」に対し、自分たちの勉強は、社会の諸問題を解決するために生かすべきであるという心構えを基本にしています。



日高 社会知性はSocio Intelligence。Socioの語源はラテン語のSociusという言葉で、これは「社会の中にある」という意味です。立つ場所というのはお話ししたいと思っています。

佐々木 外で就職した後に郷里に戻ってくる方をいかに増やすかということが重要だと実感しています。既卒者に対してもコンタクトラインを作り、滋賀の魅力が、専大に行けば分かるという態勢をつくる、そこが第一段階だと思っています。

就職課から。3年次生へ 前期から就職活動を意識しましょう。まずは5月に実施する「ナビサイト活用型インターンシップ」へ参加してください。

採用選考に関する指針では選考活動開始は6月1日としていますが、多くの企業が4月から面接を始めています。就職課では模擬面接も行いますので活用してください。

生保会社の経営課題。わが国の生保市場は大きな変化に直面している。保障型生保商品が中心の構造から貯蓄型生保商品へ移行しており、また、運用環境は激変し、高金利から超低金利の時代に転換している。

公開講座情報。経済学部公開講座「日本新しい本」はかなり難しい。本書では、厳しい経済環境のもとで生保会社に突きつけられたさまざまな経営課題について、年度ごとに発表される決算報道に基づきながら、わかりやすく解説している。